

全国商品取引所出来高

8月、前年同月比23%減

出来高合計は前月と比べると8.1%減だが、前年同月比では23%減。7月は同5%減に踏み止まっていたのに比べ、減少幅が大きくなった。

市場別上場42品目のうち前年同月を上回っているのは金、白金、粗糖、ニッケルの4品目で、全体の1%に満たない。

1~8月の累計出来高は前年同月比10.6%減。取引所別では前年同月比プラスを続けていた東工取が小幅ながら同マイナスになった。ただ、累計では26.5%増。

商品別・取引所別出来高順位表(単位:枚・%、平成18年8月)

順位	商品名	取引所名	出来高	平成17年8月出来高	前年同月比	前年同月順位	前年同月比順位の上
1	金	東工取	1,903,145	1,148,224	165.7	②	↗
2	ガソリン	〃	1,048,744	1,414,490	74.1	①	↘
3	白金	〃	794,157	762,686	104.1	⑥	↗
4	ゴム	〃	738,174	1,059,311	69.6	④	↗
5	Non-GMO大豆	東穀取	693,005	1,009,114	68.6	⑤	→
6	ガソリン	中部取	488,664	1,124,938	43.4	③	↘
7	灯油	東工取	312,864	487,547	64.1	⑧	↗
8	とうもろこし	東穀取	296,060	421,594	70.2	⑨	↗
9	灯油	中部取	288,395	666,170	43.2	⑦	↘
10	原油	東工取	182,741	237,372	76.9	⑪	↗
11	アラビカコーヒー生豆	東穀取	119,027	346,482	34.3	⑩	↘
12	一般大豆	〃	84,291	197,450	42.6	⑫	→
13	粗糖	〃	74,780	33,012	226.5	⑮	↗
14	銀	東工取	46,128	58,532	78.8	⑭	→
15	小豆	東穀取	38,778	66,864	57.9	⑬	↘
16	ゴム(RSS3)	大阪取	22,281	56,377	39.5	⑯	→
17	ロブスターコーヒー生豆	東穀取	21,175	51,366	41.2	⑰	→
18	ゴム指数	大阪取	15,208	26,858	56.6	⑳	↗
19	パラジウム	東工取	13,374	14,796	90.3	㉒	↗
20	コーヒー指数	関西取	5,038	9,578	52.5	㉖	↗
21	アルミニウム	大阪取	4,026	19,116	21.0	㉑	→
22	アルミニウム	東工取	3,983	13,387	29.7	㉓	↗
23	冷凍えび	関西取	2,947	27,808	10.5	⑲	↘
24	とうもろこし	福岡取	2,935	56,610	5.1	⑮	↘
25	ゴム(TSR20)	大阪取	2,398	10,219	23.4	㉔	↘
26	ニッケル	大阪取	1,456	884	164.7	⑳	↗
27	国際穀物等指数	関西取	1,136	7,187	15.8	㉘	↗
28	生糸	東穀取	989	9,597	10.3	㉙	↘
29	鶏卵	中部取	978	2,947	33.1	⑳	↗
30	Non-GMO大豆	〃	893	7,258	12.3	㉗	↘
31	鉄スクラップ	中部取	840	—	—	—	—
32	Non-GMO大豆	関西取	830	2,901	28.6	㉑	↘
33	大豆ミール	福岡取	825	833	99.0	㉖	↗
33	軽油	中部取	825	870	94.8	㉓	↗
33	小豆	関西取	825	825	100.0	㉗	↗
36	粗糖	関西取	690	717	96.2	㉘	↗
37	プロイラー	福岡取	550	722	76.1	㉘	↗
38	野菜	東穀取	425	5,295	8.0	㉙	↘
39	大豆ミール	〃	409	1,324	30.8	㉒	↘
40	精糖	〃	270	270	100.0	㉓	↗
40	精糖	関西取	270	270	100.0	㉓	↗
42	精糖	福岡取	135	135	100.0	㉓	↗
合計			7,214,664	9,364,761	77.0		↘

取引所別出来高(オプション取引除く)(単位:枚・%)

取引所	平成18年8月(A)	前年同月計(B)	(A)/(B)	平成18年1~8月(C)	前年同期累計(D)	(C)/(D)
東工取	5,043,310	5,196,398	97.0	46,917,170	37,069,632	126.5
東穀取	1,329,209	2,143,469	62.0	13,023,601	18,784,031	69.3
中部取	779,702	1,794,925	43.4	6,509,949	16,477,028	39.5
大阪取	45,369	113,454	39.9	468,964	1,246,044	37.6
関西取	11,736	49,848	23.5	127,862	805,096	15.8
福岡取	5,338	66,667	8.0	130,548	752,998	17.3
合計	7,214,664	9,364,761	77.0	67,178,094	75,134,829	89.4

[社]全国商品取引所連合会調べ

国際面に掲載、商品先物取引シリーズ

確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ

シラワン・カバニ代表
洪澤 健

リスクヘッジの場として長い歴史のある商品先物市場には、今日の企業経営者にも学んでいただきたいリスク・マネジメントのノウハウが集積されていますね。

JCFIA 日本商品先物振興協会
<http://www.jcfia.gr.jp/>

確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ ⑩

作家・経済評論家
島 実蔵

価格変動リスクを回避する一つの方法が商品先物取引です。改正商品取引所法施行により、その活用について広く産業界の皆様へ検討してもらいたいですね。

JCFIA 日本商品先物振興協会
<http://www.jcfia.gr.jp/>

確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ ⑪

(株)エフ・エリオット
藤原 尚之

商品先物取引に必要なのは冷静な市場分析。需給データやチャート分析など、十分な研究により、リスクをチャンスに変えることも可能ですね。

JCFIA 日本商品先物振興協会
<http://www.jcfia.gr.jp/>

確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ ⑫

トレーダー
若林 史江

なぜ値上がりし、値下がりするのか。株も商品先物取引も、その要因を考えることが大事です。できるだけ、たくさんの「なぜ」を持ちたいですね。

JCFIA 日本商品先物振興協会
<http://www.jcfia.gr.jp/>

確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ ⑬

千葉商科大学学長
加藤 寛

原油をはじめとする一次産品の価格変動は経済に直接影響を及ぼします。その安定化へ寄与する商品先物市場の役割をもっと認識すべきです。

JCFIA 日本商品先物振興協会
<http://www.jcfia.gr.jp/>

伸び続ける運用資産額

この3年間で2倍以上に

日本商品投資顧問業協会

商品先物取引市場の出来高、取引高の減少傾向が続く中で、日本商品投資顧問業協会(事務局・東京都渋谷区恵比寿、アストマックス(株)内)の会員が手掛ける商品ファンドの運用資産が昨年来、右肩上がりの増加を続けている。制度改正の影響、新規参入などもあって今後も増加が続くとみられている。ひいては商品先物市場の流動性を伸ばす一因になる。

2年間で新規参入5社

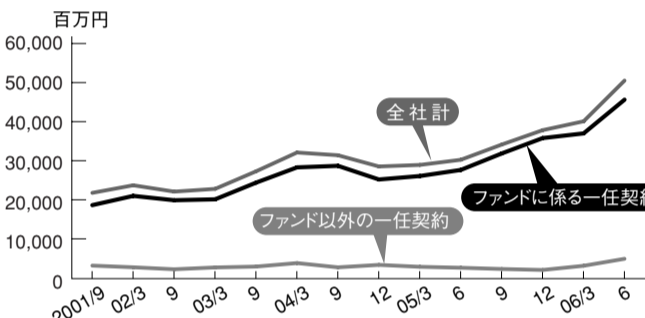
日本商品投資顧問業協会が発足したのはちょうど12年前の1994年10月。会員6社でスタートし、一時は12社まで会員が増えたが、その後5社が廃業し、2004年10月の設立10周年記念パーティーを迎えたのは、オリックス・コモディティーズ、アストマックス、オカトリー・ベストメント・マネジメント、ユタカフューチャーズ、カネツ投資顧問、USS投資顧問、インターネット・キャピタル・マネジメントの7社だった。

その頃から1年ほど会員運用資産額の減少、伸び悩み傾向が続いたが、05年から相場が一変する。原油をはじめ世界的に原料・素材の価格が高騰し、「商品の時代」が来て、投資・投機資金が商品先物に流入する傾向が強まった。

また、国内制度的には05年5月には大改正された商品取引所法が施行され、また、金融商品取引法(いわゆる「投資サービス法」)が今年6月に成立、来年7月施行の予定で、いずれも商品ファンドが一つの焦点になっている。

こうした状況を踏まえて、05年には、アドバンテージ投資顧問、光陽投資顧問、クラスターアセット・マネジメントの3社、今年には三井物産あすかインベストメント、萬成パートナー投資顧問の2社、合計5社が主務省の許可を経て設立され、新会員になった。このうち4社は商品取引員系。顧問業協会は商品ファンド振興のため今年5月には先物協会の準会員になった。新しいビジネスモデルの一端として商品ファンドに目向くとともに、ブルベア型、価格指数連動型など新商品の

●日本商品投資顧問業協会 運用資産(2006年6月末日現在)



【顧客別】 (単位:百万円)

商品ファンド(JCFA届出対象ファンド)に係る一任契約によるもの	30,328	その他ファンドに係る一任契約によるもの 国内ファンド関連	10,782	ファンド以外の顧客に係る一任契約によるもの 国内顧客関連	4,683	海外顧客関連	208	合計	50,514
----------------------------------	--------	---------------------------------	--------	---------------------------------	-------	--------	-----	----	--------

【運用手法】 (単位:百万円)

トレンドフォロー手法によるもの	6,531	アービトラージ手法によるもの	25,536	ディスクレションナリー	1,792	デイトレード他	6,975	カウンタートレード	548	Index運用他	9,130	合計	50,514
-----------------	-------	----------------	--------	-------------	-------	---------	-------	-----------	-----	----------	-------	----	--------

開発・販売も増えてきた。500億円の台大突破。運用資産総額の推移(グラフと付表参照)をみると、01年9月から03年9月までの2年間で、200億円の増加が続く。04年3月から9月までは300億円に減少した。05年6月から300億円に復帰、06年3月

には400億円に乗り、6月には一気に500億円に乗った。「商品先物を組み込むファンドは今後さらに増えるだろうし、商品投資顧問業は証券投資顧問業、投資信託関連など金融市場からの参入も出てきて、商品ファンドのビジネスチャンスは広がる」と、協会会長のアストマックス牛嶋英揚社長

JCCH

前年同月比では18%増

8月末の先物預託証拠金

全国6商品取引所の取引に関して日本商品清算機構(JCCH)へ預託される8月末の預託証拠金残高は、約4,300億円で、前月末に比べて5.6%減。7月は3カ月に増加

月末の預託証拠金残高の推移(単位:千円)

月末	証拠金計
2005年 8月	368,030,314
9月	383,713,602
10月	401,763,140
11月	461,604,650
12月	474,042,458
2006年 1月	503,332,177
2月	469,313,509
3月	496,838,656
4月	541,845,833
5月	515,359,981
6月	439,564,029
7月	461,590,776
8月	435,922,016

したが、再び減少に転じた。ただ、前年同月に比べると18.4%多い。

商品先物業界は「激動」の時代を迎えている。その

中で、流動性の減少もからんで運用の難しさが増しているが、海外関連を含め商品投資顧問業は多種多様な発展の姿をみせる可能性を示している。

新会員 ユナイテッドワールド証券

ユナイテッドワールド証券は9月8日付で、経産、農水両省から商品取引受託業務の許可を受けるとともに、先物協会の会員になった。